

夕日のガンマンそーらん節

一九七五・九

美しく受難したジューンブライド
の
遺影をはめこんだペアの懐中時計
生と死のフーガをつかの間 奏で
オルゴールの音はゆっくりと終わりを告げる

刹那の静寂 二つの銃声
夕映えの中 ガンマンが去ってゆく

……そんなシーンを夜半の目覚めに思い出すこともあった。

夢魔の侵入者たちとゲリラ戦をくりかえし
いつしかおれひとり
戦利品のヘルメットを小脇に抱え
夜明け前の寒空に
キック Oh! ff

討死に以外はない と予感する
夜の遊撃戦
そのナンセンス！
の
確認のために
内旋する

—— お前の 死の 余情を 楽しめ

遊撃手の美技 左翼手前でショートカットさ
新鮮なレフトは シオマネキの横走りか
隣には誰もいない！ トスでもパスでもパトスでもいいけれど
ラインが出来ない オール・ブラック・バス

Oh! 大気圏に孤立するオーロラ 艶 (なま) めく虹の舌打ち

こころやさしき新曲さ暴力集団なにげぬ子の刻
田園調布は風に吹かれて恋ひ人にお別れし
羽田行きー蒲田行進曲に乗り
闇雲急行バスは空港方面に疾駆するも失速して休廷する
止まれ革マレ通りゃんせの文徒的欲情解放区出現し
パチンコ玉三百発でひき換えた安っぽい COLT (ピースメーカー) だ けれど
無機質で乾いたパンパ音 pantheism は八派レンコン輪胴レボルバー
気軽に非情でなにも言うことはない
余情だなんて四畳半的私情どころかあしたの冗句も燃え尽きるのだわ

～晴れた西部の街から街へ
あしたを知らない夜がくる OK♪～OK♪
あたしの知らない朝が狂う タターンタ タラーラッタ タララー

気軽の海を越えてきた路上のそーらん節に我を失うああ騒乱そーらん
合法的暴力オペレーション・システムは起動し
右翼とヤクザのランボーなお遊戯 盾と矛
盾は横に払えば国家公認の武器となるのか タテの会 着席せよ
ほこ天解放区 矛を収めよ
心優しきニューレフト 誹謗力集団の捨身行
現象する 野へ死ス ノ絵馬ヲ! ——

もう醒めても良い頃だと振り返るとき
音もなく暮れてゆくカーテンコールか
軽い寝息もぬくみもない
毛布一枚身をくるむ
うそ寒い眠りのなかで
狂おしく抱いていたのはひたすら無頼なうただけだった

舌先に味のない声
夜ごと撃ち続けた幻影のかけらを
白昼のケルンに積み重ねようと残像の街角に立つ

いや、そんなじゃなかった

夢の中にはビロードの遮光カーテンが吊ってあり
おれのまなざしはそこで途絶えてしまい
重油にまみれた海鳥のように
手足の自由がじんわりと奪われ
かろうじて瞼をあけると牢獄的裸電球照射し
過剰な明るさにとまどうこのまなざしの斜面を
快く身もだえながらこぼれ落ちる風景があり
叫びに満ちたおれたちの唇は
しずかにピシッと割れて乾ききった

こころの錘がゆらゆれ ゆ
だからといっておれがゆるるわけじゃない

逆子を育む不生女の
羊水世界は Docki doki
……動悸している
……期している

胸元さむい目ざめの夜ごと
激して、おれは撃鉄を上げる
鉛の視線となって

—— 立ちはだかる 裸の花嫁 受難する

うち方やめや 詠い止め
流れ弾 宇宙空間をショートカットし

ああ またも夜鳴きソバの笛ひび割れた口笛 なんと
撃ち抜かれているのは台所のフライパンであり！ いま
この部屋は二度目の契約更新を面影橋のたもとに出迎えている
「一番よい時期をここですごしたのね」と若い主婦は妖艶にほほえみ
おれはあいまいに笑みかえす

よい時期だって？
ブルーな春さ、花粉症
花見月ではなく鼻水期

決心する

COLT をジャズしてコルトレーンをシフトする ことに
拳銃使いをやめたギター弾きにならない Play the Guitar …
謳うべきテーマソングをも止めて求めて Play it again !
ゆれる蓑虫その吊り糸に弾弦の爪をたててみる My Johnny …

断言する

犀の角のように ただ一人 歩め

口答えする

タダで行くさ！ 戦場（いくさば）のヒッチハイクは五七 Going my way.

隠れ家の陰 さらに一つの銃声が響く

「どうかしたのか？」と夕日の向こうからリー君の声が届き

「計算が合わなかったのだが、これで合った」と

賞金稼ぎのガンマン 計算を終える ——

……そんな検算を何度やってみたことか。

あるいはよい時期だったかもしれないこの時代

さまざまな風景をみせて過ぎていった古典力学的保存力場に

打ち倒しえたものは何もなく

滅ぼしえたものはなにもなく

膝から崩れ倒れたこの両手を天秤に

失ったものを感じるばかり

あいういう

書き句聴く

うたうような三線リズムは減衰し

ピンクフロイドの通奏低音だけが響いてくる

One of these days …… いつか、きっと！

今では夢の中でも負けて追われるばかりだ、から？

口をぬぐったわけではないけれど、過ぎてしまえば

すべては罪のないものになってしまう、から？

そうではないだろう、おれたちにはたぶん
失う何かしらが、あったのか と
ドライに
問うのが ふさわしい

たとえばルオーのミセレーレ (Miserere) にむかい、さしだされた
すがるようなあなたの掌に別なやさしさが載せられ、ことばなく
おれの臉がふせられた
…としても
Aha! カリタス 借りたままのレコード 特別の記録 の記憶

あい有為う
かきくきく

Oh! 連帯 ウェスタン聯隊歌

おれたちの目ざめの淵によどむ
不毛の水脈に死に水をとるな

倒れたために沈黙した者などいないはず
自ら求めて倒れようとした者以外には
Die inn! ……死んだふり?
大地は根無草を受け止めない
きみはただ道路を抱こうという
喜劇的なパフォーマンスをしているだけではないのか?

去ってゆく者はいつでも
少しばかりよろけてみせる
だがそれは 余計な演技だ…
自らの死の 余情を楽しめ……

おれは
声をかけたりはしない
背後から夢見ていつまでも
きみを目ざめの淵に引き留めないために

ながれてゆけよ
ただ
しなやかに

堅い椰子の実でさえ
ながれよるべきなぎさがある
赤潮叫ぶ酸欠の海でも
浮き草なれば
こそ

時代への遊撃
敗走者たちよ

冷えきったマグマのようなその怒りは
どんな心の呪縛を解体し続けているのか

いま
どこで？